

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 高校生まで医療費の無料化を	東日本大震災から3年9カ月になります。その間、
	消費税8%、さらに、11月17日に発表になった国内
	総生産（GDP）は7月～9月期のGDP成長率は
	マイナス0.4で、1年間に生み出された付加価値の総
	額年率換算でマイナス1.6とで、消費税10%への引き
	上げを1年半先送りしました。このように景気が低
	迷する中で、震災の痛みに負けず再建する各家庭は、
	必要生活物資や生活環境の多様化に伴う出費が重く
	のしかかっています。
	本町においては、多面的に町民のソフト面やハー
	ド的な面に対して、減免制度や補助制度、助成制度
	を適用し、町民が暮らしやすい施策を展開している
	ことは、他市町村に見られない町独自の努力が伺え
	ることは、常に感謝しているところですが、現在、
	本町の町民は被災の痛手からまだ回復途中です。そ
	の中で高齢者人口は、本町の人口の約3割強となっ
	ていることは本町だけでなく、少子化、超高齢化問
	題は全国共通の課題となっています。
	そのなかで、本町において子ども医療費助成制度
	は平成16年10月条例施行で3歳児まで、平成19年3
	月中学生まで対象を引き上げ、同年10月中学生の入

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
	通院無料化を実施しました。前段で述べたように町民の生活再建等諸般の実情を鑑み、町当局の見解を伺います。
	(1) 子育て世代が本町から転居しないで、女川町に住んでいただけるように、親も子も住みたい環境づくりの一環としては、どのような施策を考えていますか。
	(2) 具体的な施策として、子ども医療費無料化を高校生まで拡充してみてもいいかですか。
	高校生の医療費（推測）月 8 万円かかるとしたら、現在の国保加入者76人、国保外137人、計213人で271万円位です。中学生から推測してみると、年間約540万円位で平成25年国保療養給付の約0.62%位ですが、考えてみてはいかがですか。
	(質問の相手：町長・担当課長)
2 仙台女川間の直通線を	平成27年3月予定の浦宿から女川までのJR乗り入れが予定されています。さる8月31日、S県議の県政報告会にて、知事と県議会副議長の祝辞の中で、仙石線の女川乗り入れの可能性が有るやに伺いました。この問題は、元町長の須田善二郎氏当時からJRに要望

